#### 革新的な最新医療機器の導入

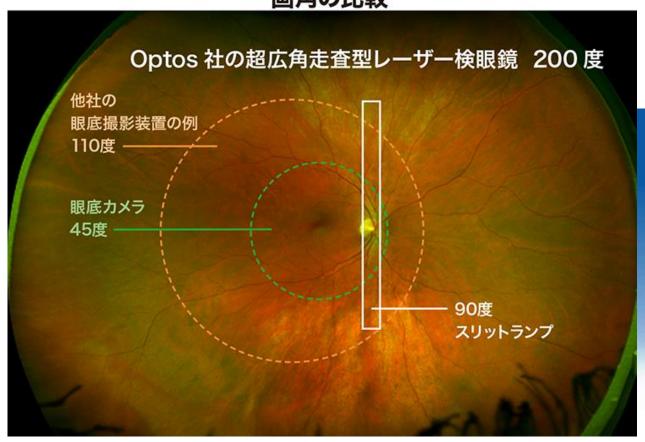
2010年当院開院以来、以下の3機種を導入しています

- ▶超広角眼底カメラ (オプトス)
- :網膜周辺部を無散瞳で撮影が可能になりました。
- SS-OCT (Triton OCT)
- :網膜深部の構造を詳細に確認可能となった。OCTを応用して血管造影を造影剤なしで撮影可能になりました。
- ▶超広角 OCT angio (Xephilio OCT-S1)
- : さらに無散瞳・造影剤なしで網膜周辺部の血管造影とOCT網膜断層撮影まで撮影可能になりました。

#### オプトス(超広角眼底カメラ)2012年導入

▶ 従来の眼底カメラでは取れなかった広範囲の網膜写真を 散瞳せずに撮ることができる大変優れた検査機器です。

画角の比較



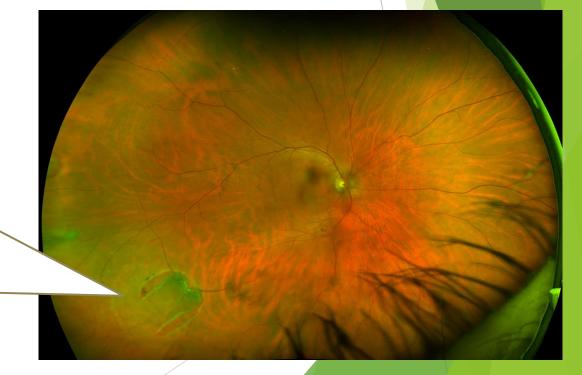


#### オプトス(超広角眼底カメラ)2012年導入

▶ 40歳以上の方や若くても近視がある方は、自覚しにくくり、 く見つかりにくい病気として早期の網膜剥離や網膜裂孔、 初期緑内障、網膜出血、眼内腫瘍、網膜色素変性、 糖尿病網膜症などが見つかる場合があります。

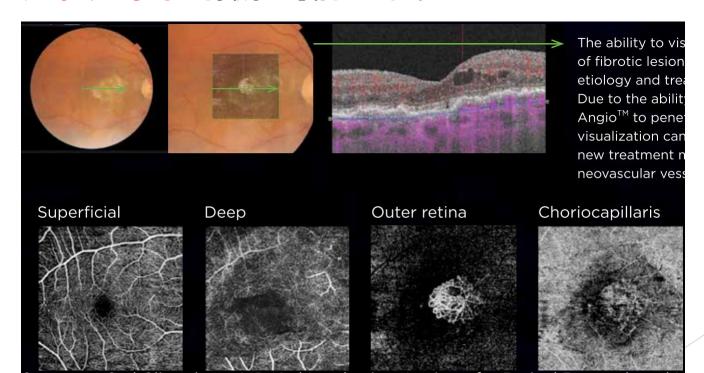
#### 症状なく見つかった網膜剥離

普通の眼底カメラや瞳孔を開かない診察では発見できません。 進行してからの発見・治療では ゆがみや視力低下などの後遺症 が残ります。



### Triton OCT(Topcon)2012年導入

- ▶ 2012年販売開始時に導入しました。
- ▶ SS-OCT: 従来のOCTと異なる方式により、高精度かつ短時間の測定が可能と なりました。
- ▶ 網膜深部の構造を詳細に確認可能となった。OCTを応用して黄斑部の血管造影が造影剤なしで撮影可能になりました。

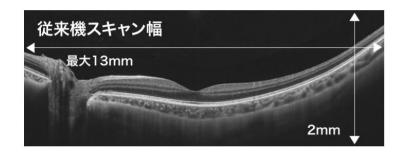




#### スキャン幅 23mm・深さ5.3mmの超広角SS-OCT

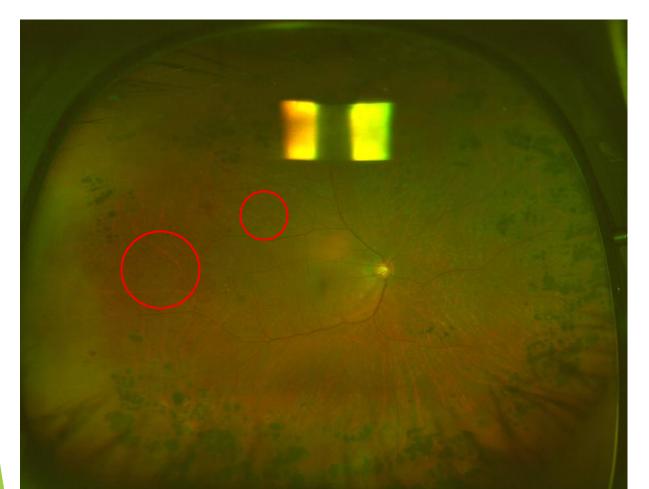
高速スキャンが可能となるSwept Source (SS) 方式を採用、スキャン幅23mm 深さ約5.3mmの超広角撮影を実現しました。硝子体から網膜・脈絡膜・強膜境界部まで、一度の撮影で高精細に画像化することができます。

従来機 (OCT-A1 OCT-HS100)では最大スキャン幅は13mmでしたがOCT-S1では23mmと約1.8倍に拡大、深さも従来機の2mmから5.3mmと約2.7倍のスキャンが可能となりました。



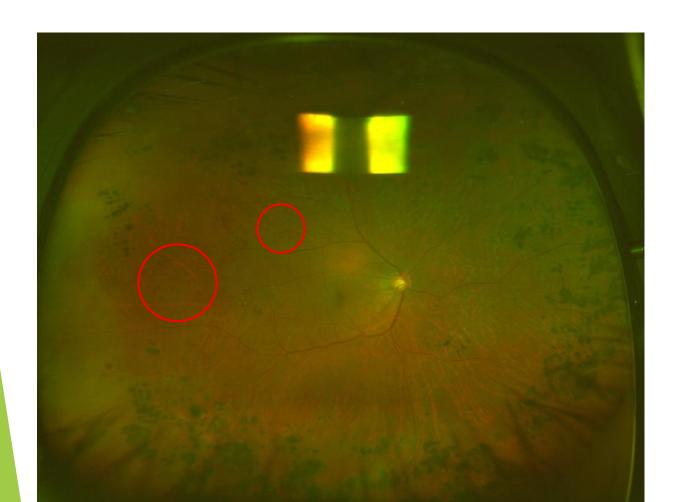


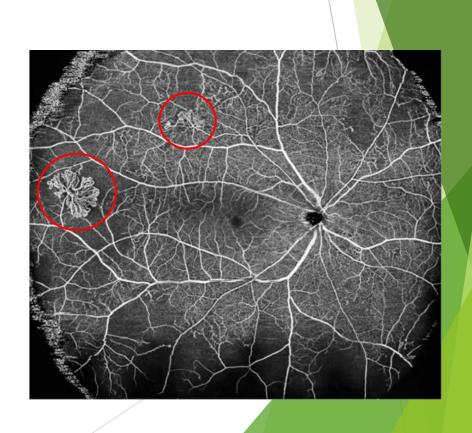
- ▶ 無散瞳・造影剤なしで鮮明な血管造影撮影ができるようになりました。
- ▶ 2021年9月現在、大学病院や眼科専門病院を含めて導入施設は全国で約40施設です。



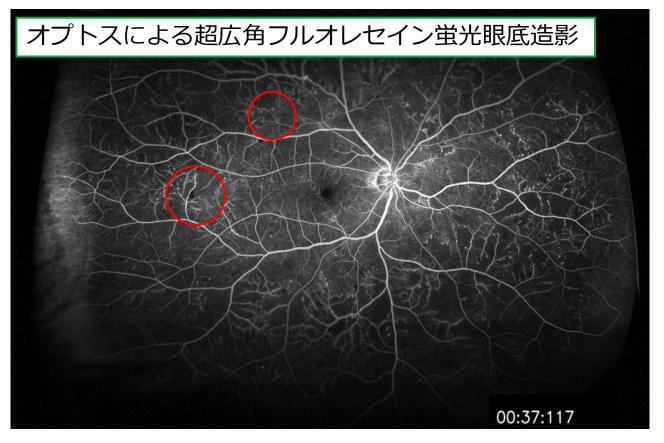


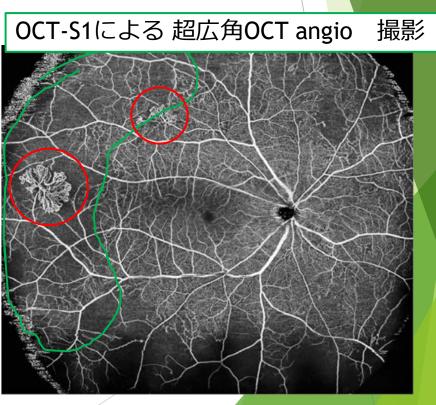
▶ 造影剤が必要ないので造影剤のアレルギーやアナフィラキシーショックの 心配がなく、数秒間で鮮明で広範囲の血管造影検査がいつでも何度でもで きます。



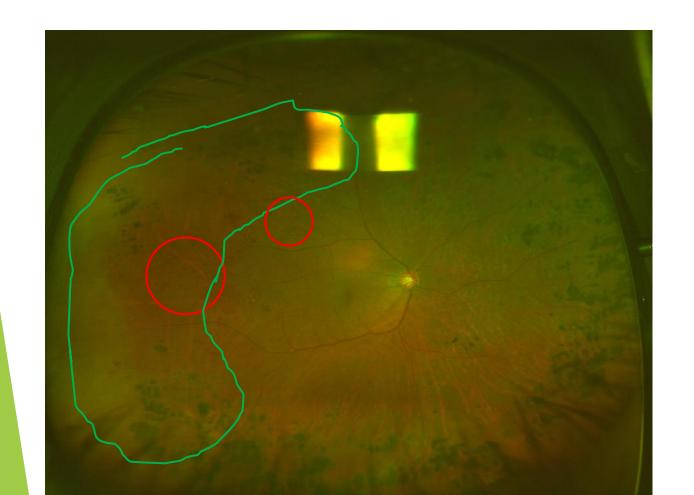


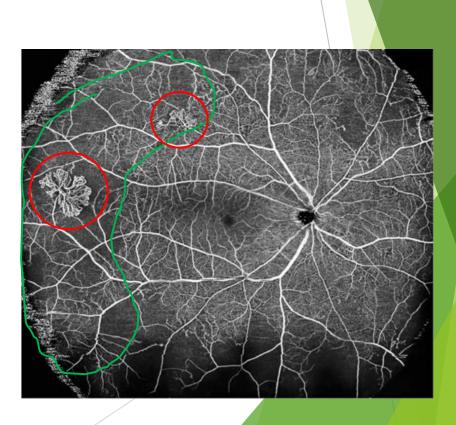
- ▶ 糖尿病網膜症でコロナの影響もあり、2年ぶりに受診されました。
- ▶ 5年前の蛍光眼底造影検査では新生血管がありませんでしたがOCT-S1の angioで確認したところ無散瞳・造影剤なしで新生血管が見つかりました。





▶ 造影剤が必要ないので造影剤のアレルギー(嘔吐)やアナフィラキシーショックの心配がなく、無侵襲・数秒間で鮮明な広範囲の血管造影検査がいつでも毎回できます。





# フルオレセイン蛍光眼底造影検査による アナフィラキシーショックのリスク

- ▶ 全副作用の発現率は 1.1~11.2%, 軽症は 1.4~8.18%, 中等症は 0.2~1.5%, 重症は 0.005~0.48 %, 死亡は 0.0005~0.002% です。 (日眼会誌 115 巻 1 号)
- ▶ ごくごく稀ではありますが死亡リスクがあり、全国で1~2年に1例散見されます。

▶ しかし蛍光眼底造影検査を必要最小限におさえると、糖尿病網膜症や加齢黄 斑変性の確認が遅れる可能性があります。

#### 眼科診療における無散瞳・超広角の意義

▶ 眼底の病気や眼底病変が疑われる場合に・・・ 従来は散瞳して眼底検査をしなければなりませんでした。

▶ 車社会であることや散瞳後4~5時間の生活制限を考えた時、 送迎や運転の都合のために受診の遅れや病気の発見が遅れてしまう 可能性があります。

▶ 最新の高性能機械を導入することで簡単に精度の高い検査ができて 診断や治療による効果の判断など診療レベルが飛躍的に向上します。

#### 眼科診療における無散瞳・超広角の意義

▶ Triton OCTで無散瞳・後極のOCTとOCT 血管造影ができるようになり、

▶ オプトスで無散瞳・周辺網膜が観察可能となり

▶ ついにOCT-S1導入で無散瞳さらに超広角のOCT撮影と血管造影も可能とな

りました。



